

## 生活に必要な金融商品を知って、選択する眼をもとう —家庭生活と消費に関心をもち、豊かな生活を—

(総授業時数：8時間)

### 実施学年、教科等

第2学年 技術・家庭科(家庭分野)

### 題材の目標

- (1) 家庭生活と消費に関心をもって学習活動に取り組み、消費生活をよりよくしようとする態度が育つようにする。
- (2) 自分の生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活を工夫することができるようにする。
- (3) 生活に必要な物資・サービスの適切な選択・購入及び活用ができるようにする。
- (4) 販売方法の特徴や消費者保護など家庭生活と消費に関する基礎的な知識を身に付けることができるようにする。

### 学習の評価

- (1) 家庭生活と消費に関心をもって学習活動に取り組み、消費生活をよりよくしようとしている。(ワークシート)
- (2) 家庭生活と消費や環境について課題を見つけ、その解決を目指して工夫している。(ワークシート)
- (3) 生活に必要な物資・サービスの適切な選択・購入及び活用ができています。(ワークシート)
- (4) 家庭生活と消費に関する基礎的な知識を身に付けている。(ワークシート)

### 展開の特色

- (1) かつて我が国では金融機関の競争が制限され、消費者にとっては金融取引や金融商品の選択の幅が狭くリスクも小さかった。ところが、平成8年に提唱されたいわゆる「金融ビッグバン」構想によって新しい金融商品が開発される一方で、金融機関の破綻や統合も見られるようになり、消費者が自己責任において金融商品を選択する必要性が高まってきており、金融商品についての理解を深めることが重要である。
- (2) 今回の授業では、「商品の選択」の学習において、中学生にはなじみの薄い言葉である「金融商品」を取り上げ、生活と深いつながりがある「預金」や「貯金」も「金融商品」であることを知らせ、いろいろな金融商品のリスクやリターンについて理解させ、生徒自らが主体的に選択する眼を養わせたいと考える。
- (3) 金融商品について学習することで、金融教育についての理解が深まり、クレジット関連の学習や、多重債務の学習にもつなげやすくなると考える。
- (4) インターネットのHP(ホームページ)を使用した授業では、東京都消費生活総合センターや金融広報中央委員会(知るぽると)及び金融庁のサイトを検索させ、信頼できる情報機関として生活に活用できるようにさせたいと考えた。これらのHPは、中学生向けの情報も充実しており、金融や消費に関してあまり詳しくない教員でも、HPからは最新の金融や消費に関する情報を取り入れることが可能であり、授業に活用しやすいと思われる。

### 「学校における金融教育の年齢層別目標」の該当項目

\*記号については、P.32～45を参照。

Aーア・イ・ウ・エ、Bーア、Cーア・イ、Dーウ

### 学習内容のキーワード

物資・サービス、消費、選択、金融商品、リスクとリターン、契約、販売方法、債務、消費者問題、クーリング・オフ制度、環境

1 金融教育のねらいと基本的性格

2 金融教育の目標と方法

3 金融教育を支援する関係機関等の活動

4 金融教育の指導計画の作成と実施に際して

5 小学校における金融教育

6 中学校における金融教育

7 高等学校における金融教育

資料

## ●指導計画

時数	ねらい	学習内容・学習活動	◆金融教育の視点	★指導上の留意点	その他(資料等)
1 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活に必要な物資・サービスが分かる。</li> <li>物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができるようにする。</li> <li>金融商品について理解し、選び方が分かるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●消費とは何かを知る。</li> <li>●サービスの種類をグループで考え発表する。</li> <li>●身近な金融商品について知り、サービスであることを理解する。</li> <li>●物資(食料品、電化製品)を選択する観点を考え、発表する。</li> <li>●金融商品を選択する観点は何かを考え、金融商品のリスクとリターンについて知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆消費とは何かを知らせる。</li> <li>◆物資とサービスの選択の観点を考えさせる。</li> <li>◆金融商品の種類と特徴を知らせ、リスクとリターン(収益性)の関係を知らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★サービスの種類を挙げ、金融商品もサービスであることを知らせる。</li> <li>★家計の消費の中でサービスの占める割合が高くなっていることをおさえる。</li> <li>★商品(物資やサービス)を選択する観点を考えさせる。</li> <li>★商品の選択について、適切な情報を取り入れることの重要性にふれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> </ul>
2 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>契約の定義を知る。</li> <li>販売方法の特徴を知る。</li> <li>支払い方法の特徴を知る。</li> <li>多重債務や金利について関心をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●契約とは何かを知る。</li> <li>●いろいろな販売方法の利点や問題点をグループで考え、発表し、まとめる。</li> <li>●支払いに使うカードの種類を知り、支払い方法の特徴を理解する。</li> <li>●『きみはリッチ?』を読んで、多重債務について考える。</li> <li>●金利の高低について、計算により支払い金額を割り出し、債務や金利について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆契約とは何かを知らせる。</li> <li>◆販売方法の特徴及び支払い方法やカードの種類、特徴を学ばせる。</li> <li>◆金利計算を通し、金利により支払いの金額が異なることを理解させ、多重債務問題を考えさせる。</li> <li>◆「返せないお金は借りない」「クレジットカードでの買い物は借金である」など債務上の規範意識をもてるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★契約の定義を知らせる。</li> <li>★販売方法では特に通信販売の1つであるインターネット販売などを取り上げ注意事項をまとめる。</li> <li>★支払い方法とカードの特徴を知らせる。特にクレジットカードやキャッシング等による多重債務問題について、資料を用いて考えさせ、債務上の規範意識をもてるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『きみはリッチ?』</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
4 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費者問題について知り、自らの生活に生かせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●信頼できる情報機関とは何か考える。</li> <li>●金融庁のHPの中の「わたしたちの生活と金融の働き」を開き、金融についての理解を深める。</li> <li>●金融広報中央委員会(知るぽると)のHPを開き、金融についての理解を深める。</li> <li>●消費者保護のための相談機関(国民生活センター・消費生活センター)を検索して、消費生活センターとはどんなところか、どのような場合に利用するかを知る。</li> <li>●インターネットを活用し、最新の消費者問題の傾向を知り、消費者問題に関するレポート「被害事例と消費者としてトラブルの時の対応の仕方について」の作成をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆インターネットと生活の関係を考え、信頼できる情報とはどういう機関から発信されたものかを考える。</li> <li>◆金融庁や知るぽるとは公的な機関であり、信頼性が高く、金融を分かりやすく解説している情報であることを知らせる。</li> <li>◆消費者保護の機関として、国民生活センターや東京都消費生活総合センター等があることを知らせ、悪質商法の被害やトラブルへの対応、携帯電話やインターネットでの架空請求問題等を考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★インターネットで正しい情報を取り入れることにより、安全で豊かな生活ができる場合もあることを知らせる。</li> <li>★消費者のトラブルの事例をHPから取り上げ、対処方法を考えさせる。</li> <li>★契約をする場合の説明責任など法律で定められている場合もあることにふれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金融庁のHP</li> <li>・金融広報中央委員会(知るぽると)のHP</li> <li>・東京都消費生活総合センターのHP</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費者にかかわる法律に関心をもち、理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ケネディの4つの権利とは何かを知り、消費者の権利と保護について考える。</li> <li>●消費者に関する法律(消費者基本法、製造物責任法、消費者契約法)の資料を読んで、各法律の内容を理解し、年代を経て消費者の保護政策が整ってきた背景を考える。</li> <li>●特定商取引に関する法律とインターネットオークションについて知り、被害の防止を考える。</li> <li>●クーリング・オフ制度について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ケネディの4つの権利を知らせ、消費者の権利と保護を考えさせる。</li> <li>◆消費者基本法、製造物責任法、消費者契約法について理解させる。</li> <li>◆特定商取引に関する法律とインターネットオークションについて知り、被害の防止を考える。</li> <li>◆クーリング・オフ制度について、理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★各種法律の資料を準備し、年代を経て消費者の保護政策が整った背景を伝える。</li> <li>★法律と生活が密接に結び付いていることを考えさせる。</li> <li>★インターネットオークションについて関連する法律を知らせ、被害の防止だけでなく、加害者にならないような配慮を伝える。</li> <li>★クーリング・オフ制度について、理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種法律の資料</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
7 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活を工夫することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●グリーンコンシューマーとしての生活を予想して、1日を日記に書いてみる(インターネットでの調べ学習を含む)。</li> <li>●日記の発表会を通して、環境に配慮した生活が、日常生活の中で自分にもできることが分かり、実践できるようにする。</li> <li>●生活と結びつくマークについて資料を確認し、日常生活で生かせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆グリーンコンシューマーとは何か知らせる。</li> <li>◆省エネや資源の活用を考えさせ、環境に配慮した生活の工夫を考えさせる。</li> <li>◆容器包装リサイクル法について知らせ、マークの理解をさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★省エネやごみの処理などについて、環境に配慮した生活を場面ごとに考えさせる。</li> <li>★使い捨て容器や、食品の包装など、便利さ、簡便さ、安易さに慣れてしまった消費生活を見直させる。</li> <li>★オール電化の場合やガス利用の場合なども調べて比較して考える。</li> <li>★3つのR(リデュース、リユース、リサイクル)の視点からも考えるようにさせる。</li> <li>★容器包装リサイクル法にもふれ、各種マークを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> </ul>

1 金融教育のねらいと基本的性格

2 金融教育の目標と方法

3 金融教育を支援する関係機関等の活動

4 金融教育の指導計画の作成と実施に際して

5 小学校における金融教育

6 中学校における金融教育

7 高等学校における金融教育

資料

1 金融教育のねらいと基本的性格

2 金融教育の目標と方法

3 金融教育を支援する関係機関等の活動

4 金融教育の指導計画の作成と実施に際して

5 小学校における金融教育

6 中学校における金融教育

7 高等学校における金融教育

資料

### ●本時の展開

#### 本時の目標

ア：生活に必要な物資・サービスが分かるようにする。  
イ：生活に必要な物資・サービスの適切な選択・購入および活用ができるようにする。  
ウ：金融商品について理解し、選び方が分かるようにする。

	学習内容	●学習活動	◆金融教育の視点	★指導上の留意点	その他 (資料等)
導入	・消費とは何か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●消費とは、物資やサービスなどの商品にお金を支払って購入することであることを理解する。</li> <li>●物資・サービスについて理解する。</li> </ul>	◆消費とは、物資やサービスなどの商品にお金を支払って購入することである。	★形ある商品は物資であり、支払って何かをしてもらう用役がサービスであることをおさえる。	
展開	(1) サービスの種類を知ろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●サービスにはどのような種類があるか、グループごとに発表し、ワークシートに記入する。</li> <li>●最近では、家計の消費の中でサービスの占める割合が高くなっていることを理解する。</li> </ul>	◆情報通信や運輸、電気、ガス、水道、医療、教育、理美容、娯楽産業、外食、クリーニング、宅配業など、様々なサービスの中に金融サービスもあることをおさえる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>★携帯電話にもいろいろな料金プランがあり、通信サービスの商品であることにふれる。</li> <li>★最近では、家計の消費の中でサービスの占める割合が高くなっていることをおさえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板に張り出せる用紙を準備し、記入して張り出させる。</li> <li>・ワークシートにも記入させる。</li> </ul>
	(2) 物資 (食料品) を選択する観点を考えよう。 ・他の商品 (電気製品) ではどうだろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●食品の選択の観点をワークシートに記入し、発表する。</li> <li>●電化製品の選択の観点を考え、食品の場合と異なる観点を考え同様に記入し発表する。</li> </ul>	◆商品の選択の観点で、品質と価格の関係を考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>★食品については、品質表示、原材料、食品添加物の有無などを思い出させる。</li> <li>★電化製品については、必要性、機能、大きさ、アフターサービスなどをおさえる。</li> </ul>	・ワークシート
	(3) 金融商品って何だろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生活費が余ったらどうするか。また、家族に収入が突然無くなったらどうするか、考え発表する。</li> <li>●金融商品の種類について教師の説明を聞き、ワークシートに記入し、理解する。</li> </ul>	◆金融商品には、 預ける—郵便貯金、普通預金、定期預金、積み立て預金など 備える—生命保険、自動車保険など 運用する—債券、株式投資などの金融商品があることをおさえる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>★生活費が余ったらお金を預ける、収入が無くなったら保険金をもらうなどを答えさせ、金融商品が家計の管理を手伝っているサービスであることを理解させる。</li> </ul>	・ワークシート
	(4) 金融商品を選択する観点は何だろう。 ・金融商品のリスクとリターンを知ろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●お金を預ける場合にどのようにして預け先を選んでいるか考える (地域性や利便性など)。</li> <li>●利息 (金利) や、利用時間、利用できる場所などはどうすれば分かるか。情報を得るにはどうしたらよいかを考える。</li> <li>●金融商品のリスクとリターン (収益性) について資料を用いて考える。</li> </ul>	◆金融商品を選択するときは、リスクとリターン (収益性) を考えることをおさえる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>★インターネットなどで調べたり、銀行で説明を受けたりし、適切な情報を取り入れて、検討することが大切であることをおさえる。</li> <li>★金融商品の選択において、リスクとリターン (収益性) を説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・銀行の説明書などの提示</li> <li>・金融庁のインターネット「わたしたちの生活と金融の働き」のプリント</li> </ul>
まとめ	・本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本時の授業についての感想を記入する。</li> <li>●商品を選ぶのは自分であり、自己責任が伴うことを理解する。</li> </ul>	◆一般的に金融商品は、リターンの高いものはリスクも高く、リスクの低いものはリターンも低いものが多いことをおさえる。	★いろいろな商品について最終的に選択するのは自分であり、選ぶことにより責任も生じることを理解させる。	・ワークシート



1 金融教育のねらいと基本的性格

2 金融教育の目標と方法

3 金融教育を支援する関係機関等の活動

4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて

5 小学校における金融教育

6 中学校における金融教育

7 高等学校における金融教育

資料

1 金融教育のねらいと基本的性格

2 金融教育の目標と方法

3 金融教育を支援する関係機関等の活動

4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて

5 小学校における金融教育

6 中学校における金融教育

7 高等学校における金融教育

資料

●教材・資料等 (本時の授業で用いる教材や資料、ワークシート等)

―生活に必要な**金融商品を知って、選択する眼をもとう**― 商品の選択

2年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

1. 消費とは・・・お金を支払って ( ) や ( ) などの ( ) を購入すること。

サービスとは・・・お金を支払って何かをしてもらう ( ) のことをいう。

2. サービスの種類を書き出してみよう (自分の班で出たもの以外は色を変えて記入しておこう)

3. 最近の支出の傾向

・食料費などの物資より ( ) の支出が増える傾向にある。特に近年では個人差はあるものの、携帯電話やインターネットなどの ( ) 費や、子どもがいる家庭では、塾やけいこごとの ( ) 費、高齢者では ( ) 費にかかる支出などが多い。

4. 物資 (食料品、電化製品) を選択する観点を考えよう

食料品	電化製品

5. 金融商品にはどんなものがあるだろう

預ける	備える	運用する

預ける …… 貯金箱に貯めるのではなく、銀行や郵便局に貯金や預金をすること。

備える …… 将来予測 (よそく) できない出来事によって、支出が増えたり、収入が減ったりするかもしれないときのため、例えば交通事故などのとき、金銭的な損失 (そんしつ) を補償 (ほしょう) (保障) する。

運用する …… すぐには使うことのないお金を、積極的に活用して、リターン (収益) を増やすこと。

6. 金融商品を選択する観点は何だろう

7. 資料から金融商品の性質を知ろう。それぞれが高い、低いを◎、○、△、×で記入しよう

	普通預金・貯金	定期預金	保険	債券・株式
安全性				
流動性				
収益性				

8. 7の表からリスクに関する指標 (安全性や流動性) とリターン (収益性) の関係についてまとめ、今日の学習について、感想をまとめよう

リターン (収益性) が高いほど・・・ ( )

今日の学習についての感想

## 金融商品を選択するポイント

### (ア) リスクのある商品

自分のお金を、どのように貯めたり、備えたり、運用するかは、一人ひとりが自由に選択できます。その選択肢の一つに金融商品があります。

では、人々はどのように選択しているのでしょうか。おそらく、一番の決め手は、リスクに対する考え方だと言われています。リスクをもっとも嫌う人は、自分の手元にお金を置いておく方法をとるでしょう。いわゆる「タンス預金」といわれるものです。リスクを避けて、ローリスク・ローリターン（リスクがほとんどないかわりに、収益（リターン）も少ない）を好むという場合は、預貯金を選択することが考えられます。郵便局の定額貯金や銀行の定期預金は、利子が低いかわりに、リスクはほとんどないからです。一方、株式や外貨預金、投資信託は、ハイリスク・ハイリターンの商品（いくら収益が高くても、元手がなくなってしまう可能性（リスク）が高い商品）といえるでしょう。

では、リスクのある金融商品を買う場合は、どうしたらいいのでしょうか。それは、リスクをむやみに恐れるのではなく、リスク管理という考え方を知っておくことでしょう。

リスク管理とは、

1. 「卵を一つのカゴに盛るな！」といった格言があるように、複数の商品に分散して投資する
2. 金融商品によっては長期間保有する
3. ハイリスク・ハイリターンの商品には、余裕のある資金で投資する
4. 同じ金融商品でも投資する時期をずらす

例えば、貯めたお金の中で、子どもの進学資金や使い道が決まっている金額は、郵便局の定額貯金やいくつかの銀行の定期預金にする、そして残りを株式や外貨預金、投資信託にまわすという選択方法もあります。ハイリスク・ハイリターンの商品を購入する場合は、リスク管理のポイントにあるように、いくつかの商品に分けて投資し、時期もずらして投資する（分散投資といいます）という方法もあります。

このように、金融商品には、リスクがあることをよく知った上で、そのリスクとリターンの様々な可能性を見極めて、自分の考えで選択していくことが必要でしょう。

### (イ) 安全性・収益性・流動性

金融商品を選ぶために、まず次の金融商品の3つの性格を理解しましょう。

1. 「安全性」	元本が保証されているか、預金保険制度の対象となっているのか、ということ
2. 「流動性」	資金が必要になったとき、すぐ引き出せるのか、換金（かんきん）できるのか、中途解約（ちゅうとかいやく）できるのか、ということ
3. 「収益性」	より高いリターン（収益）が期待できるのか、ということ

これら3つの性格すべてに優れた金融商品は、1つもありません。それぞれの金融商品の長所と短所を理解して、自分のお金の目的別に金融商品を選ぶことが重要なのです。

（出典）金融庁 HP「わたしたちの生活と金融の働き」[http://www.fsa.go.jp/fukukyouzai/nyuumon/04\\_03.html](http://www.fsa.go.jp/fukukyouzai/nyuumon/04_03.html)  
（平成 18 年 12 月時点）